

## ぐりはま

田中 愛子

先日、NHKテレビの「チコちゃんに叱られる！」を見ていたら「お蔵入り」の語源の解説をしていた。「くら」はもともと千秋楽の「らく」を反対にしたことばで、のちに「蔵」という文字が当てられたとのことである。歌舞伎の興行にもかかわっていた露天商たちがことばを逆さまに言うならわしがあつて、その流れで逆さまのことばが歌舞伎界に入り、世間にも定着していったらしい。「お蔵入り」のほかにも「はまぐり」を「ぐりはま」、「しろうと」を「とうしろう」が紹介されていた。

〈蛤〉の筋目模様のうつくしさされどわれらが日々の  
柏崎驍二『北窓集』  
〈ぐりはま〉

「さかさことば」と題する五首の一首目に置かれている歌である。「ぐりはま」ははまぐりの「はま」と「ぐり」を反対にしたことばである。意味は、物事がくいちがうこと、あてがはずれること。はまぐりは平安時代から貝合わせに用いられたように、対になっている貝以外は貝殻がび

ったり合わず、その貝の左右二枚の貝殻だけがすきまなく合うといわれる。そこから、はまぐりを逆さにした「ぐりはま」に、先のようなずれてしまつてびつたりしないという意味合いが生まれたようだ。このように、ことばを逆さまにしたことで意味合いも逆になったものもあるし、意味合いはかわらないものもある。たとえば「たね」をひっくり返した「ネタ」が後者である。

ジャズマンはなんでもことばを逆さにして会話すると聞いたことがある。「ジャズ」を「ズージャ」、「ピアノ」を「ヤノピ」といった感じである。そういえばタレントのタモリさんもジャズマンだった。本名の「森田」を逆さまにした呼び名の「タモリ」がそのまま芸名になったとか。

ジャズの世界に限らず、さまざまな職業や仲間うちだけで用いられることばがある。仲間のあいだだけで通じることばを共有して、自分たちだけが分かる会話を楽しんだり、他の人には聞かせたくない話を秘密めかして交わしたりする。仲間意識を高めることもあつただろう。逆さことばもそのひとつ。

そんな逆さことばであるが、ジャズマンの真似をして逆さことばを楽しむのはいいけれど、コスモスの重鎮のAさんを紹介しようとして、「こちらはコスモスのチンジュウの…」なんてうっかり言ってしまったらコトですので、あまり逆さことばで遊ばないようにしたいと思います。